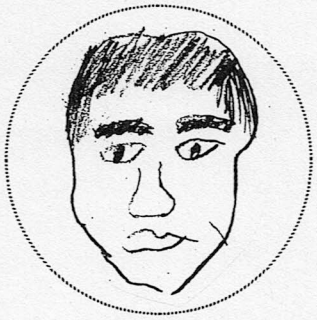
学校だより
希望の鐘
ひとつのつぼみはいちどしかひらかない



八戸市立
小中野中学校
平成３０年６月２９日（金）
No.122 文責：校長 工藤聡

運動部の代替わりの今だからこそ

代替わり（ダイガワリ）とは「組織や団体の中で、新しい世代が中心となること」を意味します。「新旧交代」とか「世代交代」と言ったりもします。２次考査が終わり、昨日から運動部における２年生と１年生の活動が始まりました。もちろん、県大会に出場する３年生はいますが、当然活動の中心は２年生となります。このような時期、それまでの部の決まりや練習の流れを踏襲（トウシュウ：前のやり方などをそのまま受け継ぐこと）することにはなるのですが、それまでと違った特徴的なことも出てくるのではないでしょうか。逆に、今までは、部長や３年生がきっちり統率（トウソツ：多くの人をまとめてひきいること）していたものが、乱れたりバラバラになったりすることもあります。そういった「コナ中運動部の代替わり」の時期、心のより所（ヨリドコロ：活動したりしていくうえで、心の支えや頼りにするもの）にしてもらいたい言葉を紹介します。

それは、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉です。この言葉は、教育者であり哲学者であった森信三という人が提唱した「職場再建の３原則」の言葉です。詳しく説明しましょう。

①【時を守り】とは、【時間を守ること】です。 これは、相手を尊重するということなのです。待ち合わせの時など、常に相手より先に待ち合わせ場所に行くことで、相手から信用を得ることができます。また、期日の決められた提出物や約束などを、きちんと守ることで、やはり信用や信頼を得ることにつながります。部活動の開始時間に間に合うことや、プレーの中でも部員同士、信頼し合うことにもつながります。

修学旅行では、「10分前行動」という言葉をよく耳にしました。授業の開始でも、５分前に席に座り、開始までの残りの時間に姿勢を正し、心を静めて教科の先生を待つことができるようになれば、授業の内容も頭にスーッと入っていくのではないでしょうか。朝も遅刻をしないためには、自らの力で起きて、遅刻となる時刻の５分前には校舎に入りたいものです。こういった何げない日常の行動も、部活動に大きな影響をもたらすと私は思っています。

②【場を清め】とは、【掃除をすること】【身の周りの整理整頓に心掛けること】です。 掃除をすることは、ただきれいにするだけでなく、「気づく人になれる」「心を磨く」「感動の心を育む」「感謝の心が芽生える」とも言われています。人にしてもらっても気づかないような心が、自ら実際に一生懸命掃除することで、このような心を感じることができるのだと思います。

今年度の掃除の時間の様子を見ると、清掃開始時の「黙想」から始まり、菊池先生がいつも言っている「無言清掃」が昨年度より身についてきたと感じます。それは、清掃に集中できているということです。部活動でも、練習後の後始末（掃除）をしっかりやっていると思います。練習用具も大切にしていると思います。そういった気持ちのいい練習環境こそを自分たちの手で作っていくことが、技術や精神力の向上につながると思います。

③【礼を正す】とは、【挨拶と返事をすること】【服装をしっかりすること】【姿勢を正すこと】です。 誰に対しても、自分が知っている最高の言葉と態度で、最高の礼を尽くすことができるというのは素晴らしいことだと思います。作法は知っていれば、それに越したことはありませんが、それよりもどんな人に対しても敬意を払うことが何よりも大切なのです。みなさんは、練習においても先生やコーチの方、保護者のみなさん等に、様々な場面でお世話になっています。だからこそ、誰に対しても礼を尽くさなければならないと思っています。何かをしてもらったら「感謝してください」といつも言っているのは、そんな理由があるからです。

挨拶は、心を開いて相手と向かい合うということです。「はい」という返事も同じです。会話というコミュニケーションが人と人をつなぐ大きな意思の伝達方法となるわけですから、相手からの呼びかけに素早く気持ち良く返事することが、会話を円滑に進めるコツになります。

服装や姿勢を正すというのも同じです。時と場にふさわしい服装をすることや、姿勢を正すことも相手を尊重することになるのです。声が出ていない部は、肝心な場面で勝てません。だらしない服装の部は、試合や練習に臨む、そもそもの権利はありません。目標をはっきり設定し、それに向かって姿勢を正して向かって行ってください。

以上のことを常に意識して活動してくれれば、コナ中の伝統に新たな１ページが加わるはずです。引退した３年生も、是非応援してください。

小中野中学校だより 希望の鐘 ひとつのつぼみは いちどしかひらかない №１２２ 平成３０年６月２９日発行

私もまだまだ修行が足りません！

最近、私もまだまだ修行が足りない（シュギョウガタリナイ：能力や実力が足りないさま）なあ…と思わざるを得ないことが続きました。一つは、希望の鐘№１２０の「ひとりごと」の欄で、『やってはいけない場面や場所で思わずガッツポーズをしてしまった』ということなのですが、以下のこともありました。

６月18日の市中体夏季大会の卓球会場でのことでした。この日は、予選リーグを勝ち抜いた上位４校による決勝リーグが行われていました。ベンチコーチとして登録してあった方が仕事で来れないため、私がコーチとしてベンチに入ることになりました。八戸市中体連卓球競技のルールでは、団体戦の決勝リーグに限り、一つの試合で１回のタイムアウトが認められています。団体戦は１ダブルス４シングルスあるわけですから、小中野中はそれぞれ１回ずつ計５回のタイムアウトがとれることになります。優勝した根城中との対戦の時、私は亀谷健太朗くんと加藤寛人くんのダブルスを見ていました。この二人のダブルスはかなり強力で、予選リーグ４試合で１回も負けておらず、小中野中が決勝リーグに進出する原動力（ゲンドウリョク：物事の活動のもととなる力）となっていました。二人のコンビネーションも大変よく、１セット目はヂュースで惜しくも取られましたが、２セット目は、10－７と、あと１本で取れるまできていました。ただ、２本続けて返され、10－９になったところでサーブは加藤くんです。卓球においては、サーブをする方が圧倒的に有利です。そこで、私がタイムアウトを要求しました。ベンチに来た加藤くんと亀谷くんに、「ここが勝負所（ショウブドコロ：勝敗を争っている時に、勝利へ導く転機になると思われる大事な局面のこと）だよ。ここで１本取れば、必ずダブルスもとれるし、この試合も勝てる。加藤くん、サーブをしっかり考えて出せよ。」とアドバイスをしました。私の言っていることは大袈裟ではなく、隣の台（団体戦は２台並んで試合を行います）では、小野寺咲太くんが熱戦を展開していますが、わずかながらリードしていました。本当にここで１本取ることが、小中野中の勝利につながります。そして、結果は…。なんと、いつもはほとんどミスのない加藤くんが、サーブミスをしてしまったのです。私が、「ここが勝負所」と言ったことで、加藤くんに無意識にプレッシャーをかけたのではないかと猛省（モウセイ：強く反省すること）しています。タイムアウトを私がとって、それが勝因（ショウイン：勝った原因）になる…と私が甘く考えていたのだと思います。

６月22日の生徒朝会でのことです。この日は、市中体夏季大会の報告会でした。賞状伝達の後、私の話になりました。朝会の際は必ず生徒を座らせて話をするのですが、賞状伝達の時に座っていて、私の話の時に一回立ったので、何度も立ったり座ったりを繰り返えさせるのも…と思ったことと、短く話すつもりでしたので、今日は座らせなくてもいいかと簡単に判断し、生徒のみなさんを立たせたままで話を始めました。すると、１分くらいで一人がグラッとして倒れてしまったのでした。幸いどこかを強く打つこともなく、ケガもせずにホッとしたのですが、これはやはり私の大きなミスだと思いました。いつも座るように気を配っていても、たった１回立たせたままの時に倒れてケガをしたのでは、それまでの配慮は全くのムダとなってしまいます。ここも、猛省したところでした。

何度か言いましたが、私も60歳になりました。人間としても、教員としても経験を重ねて来たわけですが、まだまだ未熟であり、それを露呈（ロテイ；隠していたことがあからさまになること）したことになります。もしかすると、どこかで気を抜いたり油断していたのでないかと思っています。１学期のまとめに入る７月を前に、もう一度気持ちを引き締めたいとおもいます。

【今日のひとりごと】

●今週の金曜日（６月26）、図書ボランティアの方々が、図書室と玄関に七夕の飾り付けをしてくれました。とても涼やか（スズヤカ：すがすがしくて、さわやかなさま）で、暑さがやわらぐような気がします。図書ボランティアのみなさん、いつも本当にありがとうございます。

●運動部は代替わりの時期ですが、吹奏楽部は７月７日の本番まで一週間となりました。１次考査が終わってから、放課後の練習をずーっと延長して頑張ってきました。部員15人全員の力を合わせ、目標を達成してくれることを願っています。

●今日の私の似顔絵は、２年２組の種子紘彰くんに描いてもらいました。野球部の種子くんですが、木村祐斗くんの後を引き継いで、部長になったということを聞きました。新生（シンセイ：新しく生まれること）コナ中野球部として、まずは夏休み中の安協大会目指して頑張ってください。